

「第27次ホームステイ」で、飯田日中友好協会に来られた4名の中の  
「張 穎」さんから飯田日中友好協会清水会長宛のメール内容（礼文・感想）

飯田日中友好協会清水会長 様

東京大学の張穎です。三日間のホームステイでわたしたち4人は本当にいろいろお世話になりました。会長様及び飯田日中友好協会のみなさま方にも本当に心から感謝を申し上げます。短かったですけど、充実で楽しい三日間でした。本当にありがとうございました。おかげさまで三国誌に関する素晴らしい人形藝を楽しむこともできましたし、日本中一番美味しい桃を味わうこともできて、満蒙開拓団記念館の見学を通して、戦争が双方の国民にどれだけの被害をもたらしたのか再び認識できるようになりました。また日中友好のために一生懸命努力してくださる皆様の姿にも非常に感動して、自分たちも将来中日友好のためにできれば少しでも力をつくしていけばと思っています。これからもぜひともよろしく願いいたします。

飯田文化遺産伝承や観光産業の発展に関して皮相な考え方でございますが、簡単にまとめさせていただきます。

まず文化観光の視点から考えれば、人間が旅行するモチベーションは二つあると考えられています。一つは昔を振り返るためです。つまり、過去に関する記憶への帰属感を求めることが目的です。もう一つは、珍奇なものやことを見つけたり、感覚的に刺激体験を求めたりすることが目的です。

飯田市の観光情報ガイドブックに郷土的な価値観を表した「結いの心が育まれ自然と文化が融合するまち、飯田」という言葉が書いてあります。東アジア（東南アジア）のような農耕作業を中心とした社会にとって、その言葉には人間と自然、人間と人間、身と心の根本関係が十分にまとめられていると思われています。水田稲を中心とした生産方式によって、中国、日本、韓国及び他の東アジア（東南アジア）の農業国の伝統意識や組織制度または行動実践の類似性が決められていると考えられています。グローバル化や工業革命のショックのもとに、伝統農業生態と農業景観はめったに見られない状況になってしまったと思われまます。(現在日本に残された棚田も数えられるほどごく少ない状態だそうです)。しかし、飯田市が農耕文明の根本をまだ保有して大切にしていることが本当に大したものだと感心しております。したがって、「飯田」という二つの文字で農耕文明の精髓を十分に表していて、その文字自体は代わることでできないシンボルとして相当の価値があると思っております。まとめて言えば、「飯田」という二文字から農耕郷土の記憶への帰属感が感じられるのです。

一方、比較の立場から見れば、「郷土」に対するアイデンティティーや「景観」に対する認知などからは必ず特定の社会文化伝統の影響がみられると思われまます。一つの民族文化を理解しようとする場合、その通常性はもちろん、その特殊性も明らかにしなければならないと思われまます。同じ農耕生産業にしても、中国、日本、韓国はそれぞれの生活様式と芸術形態にはそれぞれ異なっている形が見られます。古代の中国において広い平原をもとにした農耕文明が盛んだったため、「天」が「地」と「氣」を支配するという文化原理やきちんとした暦法と親族制度が整えられたのだと言われてい

ます。しかし、農耕文化が長期間にわたって「島国の基」と見なされてきた日本は実は従来の中国大陸の「earth bound」という郷土社会とは違います。日本においてはその独特の地理気候環境によって小型の盆地が生まれてきて、しかも四季がはっきりしています。古代の日本人は花時期や紅葉時期や鳥獣渡りなどの最も直感的な経験から水稻の種まきや収穫の時期を判断したりしました。(たとえば、古代の日本においては桜が畑神や谷神の居場所だと言われ、桜が開花すれば、畑神がお見えになるシンボルだとみなされていました。)すべての審美活動は「歴史的と非任意性的な構造 (historic and nonrandom)」をもとにして行われたことだと思われています。植物の栄枯盛衰に対して特別な関心を持つという「生産美学化」は日本農耕の典型的な特徴だといってもいいと考えられています。それによってだんだん日本人の草木鳥虫に対する敏感な感受力や繊細な選別力が育てられてきたと言われています。

「生産美学化」を核心価値とすれば、それをめぐって飯田人の花に対する愛着(たとえば、一本桜、紫陽花、花菖蒲)、祭りを酔うこと(たとえば人形祭り、霜月祭り、りんご祭り)、郷土の味を自慢すること(たとえば果物や漬物)、伝統手工芸を表現すること(水引)などが飯田市農耕文化という一つのシステムの中においてお互いに支え合いながら、解明し合うようになっていくだろうと思っております。それこそ、飯田ないし日本の原風景と解釈できるだろうと考えております。

飯田市の外からみれば、思いがけない風景がみられるかもしれないと思っております。以上管見の限りの愚見でございますが、短い三日間でしたが、飯田日中協会の皆様方やホストファミリーの飯田人家族の方々からたくさんの家族愛をいただきまして、本当にありがとうございました。

以上

日中友好会館

張穎 孫大青 劉莉莉 俞莉娜

112-0004

東京都 文京区後楽1丁目5番3号

TEL: 03-3814-1261 FAX: 03-3814-8383

(参考)

張穎先生は、重慶市の四川芸術学院 中国芸術遺産研究センター、博士・副教授・副主任で  
現在 東京大学、文化財・人類学部門に留学中。